

意見を踏まえた論点の整理

| | 項目 | 課題 | 目指すべき支援の方向性 | 論点 |
|------|------------------------|--|---|--|
| 方向性 | 基本的な方向性 | <ul style="list-style-type: none"> ひきこもりに係る共通認識を共有する必要性 | <ul style="list-style-type: none"> 関係者が共通認識を持って支援できるよう、目指す社会や基本スタンスをキーワードとして共有する。 | <ul style="list-style-type: none"> ひきこもり支援において目指す社会とは。 ⇒例：「誰もが緩やかにつながり支えあいながら、自分のペースでありのままに安心して暮らせる信州」 ひきこもり支援に当たって、関係機関や支援者が持つべき基本スタンスや理念はどのようなものか。 |
| 相談窓口 | 明確化した相談窓口の設置促進と周知 | <ul style="list-style-type: none"> 相談窓口がない、分からない、繋がらない | <ul style="list-style-type: none"> 身近な地域(市町村域)に相談窓口が設置され、広く周知されており、当事者や家族が、安心して利用でき、適切なアセスメントを受けることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 目指すべき相談窓口とはどのようなものか。 (繋げるための相談のしやすさ、ひきこもりを地域に知られたくないという方もいるため、広域でのフォロー等) 窓口を広く周知するためにはどうしたらよいか。 |
| 支援体制 | 本人・家族に継続的に寄り添える支援体制の構築 | <ul style="list-style-type: none"> ひきこもり支援を段階的・継続的に担う人材・支援機関の不足 | <ul style="list-style-type: none"> 身近な地域で、ライフステージを通じ、相談から社会参加、就労支援に至る段階的・継続的な支援が受けられる体制が整っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ひきこもり支援に係る社会資源が少ない中、相談から繋がった当事者・家族をどのような体制で支えていくべきか。 |
| | 本人の居場所や社会参加の場づくり | <ul style="list-style-type: none"> 身近な地域における居場所や社会参加の場が不足 | <ul style="list-style-type: none"> 当事者の意思が尊重された上で、当事者が状態やニーズに合った居場所等に参加し、意欲を取り戻すことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 「居場所」とはどのようなものか。 例：「居場所とは、自宅以外に、自分が安心して自分らしくいられる空間」KHJひきこもり連合会居場所づくり実践マニュアルより どうしたら地域の居場所を増やすことができるか。 居場所を設置するに当たって留意すべきことは何か。 |

| | 項目 | 課題 | 目指すべき支援の方向性 | 論点 |
|----------|-----------------|--|--|---|
| | 家族の交流の場づくり | <ul style="list-style-type: none"> 身近な地域における家族会等の設置促進・運営支援が必要 | <ul style="list-style-type: none"> 身近な地域に、家族が、本人の状況を理解し、意欲を取り戻す回復過程を知り、適切な関わり方を会得するとともに、家族に対しても支援を受けられる場が整備されている。 | <ul style="list-style-type: none"> 家族の交流の場を増やすにはどうしたらよいか。 継続した参加を促すにはどう工夫したらよいか。 家族への支援には、「当事者を支える家族」の視点と「介護など家族本人が抱える課題」の視点とあるが、それぞれどのように取り組むべきか。 |
| 関係機関との連携 | 地域の関係機関によるチーム支援 | <ul style="list-style-type: none"> 圏域での関係機関のチームによる連携支援体制が不十分 | <ul style="list-style-type: none"> 身近な地域において、当事者や家族それぞれの状況に応じて、支援機関が十分に連携しながら継続して支援する体制が整っている。 | <ul style="list-style-type: none"> 目指すべき関係機関の連携体制とはどういうものか。 どうやって連携を図っていくか。 |
| 人材育成 | 人材育成 | <ul style="list-style-type: none"> 相談員等のひきこもり支援に係る理解や育成の機会が不足 支援の段階を理解し、長期的な視点を持った支援ができていない。 | <ul style="list-style-type: none"> 身近な地域において、相談員・支援員が、当事者や家族に寄り添い、適切に支援を行うことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 当事者・家族の心情を理解し寄り添いながら、適切なアセスメントや専門的支援ができる支援人材の養成をどのように行っていくのが効果的か。 ひきこもり支援の段階をそれぞれが理解するためにはどのような手段が有効か。 |
| 理解促進 | ひきこもりに対する理解促進 | <ul style="list-style-type: none"> 家族や地域のひきこもりや支援に対する理解不足 | <ul style="list-style-type: none"> ひきこもりは、「誰にでも起こりうること」「相談して良い悩み」であるという意識・風土の醸成と、それに向けた啓発・周知が必要である。 | <ul style="list-style-type: none"> どのような内容、方法の周知・啓発が効果的か。 |